

〔官中秘策年中行事〕年中諸國江御代參并御使者之事

一正月禁裏御年始之御使、高家之肝煎面々勤之、御暇之節於御座之間、判金拾五枚、時服三、御羽織被下之、

〔天明年中行事〕正月晦日、關東御使、是は年始御祝儀御使として、高家肝煎三人の内上京あり、參内の日限仰出され、御使所司代衣冠にて同伴、唐御門より參内、諸大夫の間より昇殿、鶴の間に著座、傳奏出席、御口上申述有、兩卿言上の後、御對面有べきのよし仰出され、清涼殿御上段へ出御、兩卿誘引、布障子邊に列座、御進獻之御太刀折紙、傳奏披露御使中段において龍顏を拜せらる、次に亞相公御進獻の御太刀折紙、披露の次第前に同じ、次に貫首申次にて、御使所司代自分の御禮、御太刀折紙、壹人ヅ、御中段へ持參有、ひさしにおいて龍顏を拜せらる、次に天盃下され、中段にて一人ヅ、頂戴畢て鶴の間へ退き、御禮申退出也、參院の次第、凡右に同じ、

女院の御所へ參上之儀は、御客之間にて兩局出會なり、御返答は、日限仰出され、御使の高家烏帽子直垂にて長橋の奏者所へ參上也、内院御附同伴案内にて上の間へ著座、傳奏兩卿出席有、御所所よりの御返答一所に仰出され、御暇の拜領物御物仕の女中持出、兩卿申渡さる、又菓酒を被下、是も御物仕給仕なり、廿七日頃京著、廿八日廿九日頃參内の事も有、今は大かた廿八日頃著にて、二月朔日ニ日頃參内、其後御暇なり、

〔光臺一覽〕抑禁中肇春之御儀式○中月末に從關東、年頭之御上使、高家衆二人參洛有之○中年頭之御上使は正月十五日、關東上元之御禮總詰、十五日之朝御登座にて、御直に年頭之御上使被仰付、兩人とも御城より直様に品川迄發足有、供奉之面々も追懸供之氣色なり、前度に御老中方より御内意有事とかや、禁中へ關東より御獻上物は、御太刀一腰、御馬代判金一枚、御内書一通、兩傳奏連名、又傳奏衆へ御太刀馬代被下之、各通に御内書一通宛被下、御内書の御文書は、